

# 核を否定し返すために

---被爆二世、三世の役割とは何か

◆日時：2018年 **12月15日** (土) **13:30** 開演~15:00 終演

◆会場：浦上キリシタン資料館 コミュニティースペース

20世紀、核分裂の巨大なエネルギーを手にした人類は、それ以前とは全く次元を異にする時代に生きることとなりました。それは「核による破滅」と隣り合わせに生きる時代です。**核と人類は共存できない**。広島と長崎が、私たちに教えている歴史の教訓です。

しかし、世界はいま、核の抑止力を維持・拡大しようとする核保有国と、核廃絶を目指す非保有国の間で対立が生じ、核危機は深刻化しています。

そんな時代と核の信奉者に抗していくためには、「**核を否定し返す**」思想を打ち立てることです。中心にいるのは、被爆者です。それは広島、長崎の被爆者であるとともに、世界に広がりつづける様々な「ヒバクシャ」でもあります。核実験、原発事故、核開発関連事業に関わることによって生まれたヒバクシャであり、それを「**グローバルヒバクシャ**」と言います。同時に、二世、三世、四世と、世代を超えて、継続・拡散していくヒバクシャでもあります。

今回の「アジェンダ」では、核時代に生きる「ヒバクシャ」とは何かを世界的スケールの中で俯瞰的に捉え、「核を否定し返す」ために、広島、長崎のヒバクシャが何をすべきかを考えます。



◆講師：高瀬 毅 (たかせ・つよし) ノンフィクション作家、ジャーナリスト




1955年長崎市生まれ。明治大学政治経済学部卒。ニッポン放送記者、ディレクターを経て、フリー。著作『ナガサキ 消えたもう一つの「原爆ドーム」』、『ブラボー 隠されたビキニ水爆実験の真実』、『東京コンフィデンシャル』『この国で老いる覚悟』『本声を聴け』など多数。雑誌AERAで20年以上、人物ドキュメント「現代の肖像」を中心に署名記事を執筆。「週刊金曜日」「ヤフーニュース」「WEBRONZA」にも記事を寄稿。北海道新聞(西日本、中日記事提携)などで書評を担当。これまでNHK、テレビ朝日、文化放送、J-waveなどでコメンテーター、キャスター。NBC長崎放送のラジオでは22年間、毎週コラムを担当している。長崎大学教育学部で毎年春、招聘講師として核問題について講義。ピースボート講師(水先案内人)として6回乗船。タヒチ(2013年、14年、16年)、マーシャル諸島

(16年)、オーストラリア(18年)など太平洋の核実験のヒバクシャと交流、実情を取材。またウクライナ・チェルノブイリ周辺の被爆についても取材(13年)。被爆二世として、今後の継承の仕方や考え方を模索している。

◆定員：50名 ◆参加料：500円

◆申込：浦上キリシタン資料館宛に電話・ファックス・メールでお申し込みください。

◆主催：アジェンダNOVAながさき (公財) 県民ボランティア振興基金支援事業

浦上キリシタン資料館

開館時間：10:00-17:00 休館日：月曜日(但し月曜が祭日の時はその翌日)

〒852-8116 長崎市平和町11-19

Tel&Fax 095-807-5646 E-mail: urakamicm@mxn.cncm.ne.jp

長崎電鉄「平和公園」停留所徒歩5分 長崎バス「浦上キリシタン」徒歩1分